

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 4 月 12 日 (2007.4.12)

【公開番号】特開 2005-307074 (P2005-307074A)
 【公開日】平成 17 年 11 月 4 日 (2005.11.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-043
 【出願番号】特願 2004-128110 (P2004-128110)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 51/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 51/00

C 0 8 L 101/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 23 日 (2007.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリオルガノシロキサン (S) と、(メタ) アクリル酸エステル系単量体単位と架橋剤および/またはグラフト交叉剤とを含有するポリ(メタ) アクリル酸エステル (M) とからなり、質量平均粒子径が $0.05 \sim 0.6 \mu\text{m}$ である複合ゴム状重合体 (R) に、ビニル系重合体がグラフトした第一のグラフト共重合体 (A) $1 \sim 99.9$ 質量部、

質量平均粒子径が $0.6 \mu\text{m}$ 超 $30 \mu\text{m}$ 以下であるゴム状重合体 (G) に、ビニル系重合体がグラフトした第二のグラフト共重合体 (B) $99 \sim 0.1$ 質量部、および

その他の熱可塑性樹脂 (C) $0 \sim 80$ 質量部

からなることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 2】

ゴム状重合体 (G) が、(メタ) アクリル酸エステル系ゴム状重合体 (G1) であることを特徴とする請求項 1 に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 3】

ゴム状重合体 (G) が、ポリオルガノシロキサンと、(メタ) アクリル酸エステル系単量体単位と架橋剤および/またはグラフト交叉剤とを含有するポリ(メタ) アクリル酸エステルとからなる複合ゴム状重合体 (G2) であることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 4】

他の熱可塑性樹脂 (C) が、ポリメタクリル酸メチル、アクリロニトリル - スチレン共重合体 (AS 樹脂)、アクリロニトリル - スチレン - N - 置換マレイミド三元共重合体、スチレン - 無水マレイン酸 - N - 置換マレイミド三元共重合体、ポリカーボネート樹脂、ポリブチレンテレフタレート (PBT 樹脂)、ポリエチレンテレフタレート (PET 樹脂)、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、メタクリル酸メチル - スチレン共重合体 (MS 樹脂)、アクリロニトリル - スチレン - メタクリル酸メチル三元共重合体、変性ポリフェニレンエーテル (変性 PPE 樹脂)、ポリアミドからなる群から選ばれる少なくとも 1 種以上であることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の熱可塑性樹脂組成物からなる成型品。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の熱可塑性樹脂組成物をシート成形してなる成型品。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の熱可塑性樹脂組成物を異形押出成形してなる成型品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明者らは、上記課題を解決するために鋭意検討した結果、少なくとも特定の 2 種のグラフト共重合体を含む熱可塑性樹脂組成物が上記課題を解決できることを見出し、本発明を完成させた。

すなわち、本発明の第 1 の態様は、ポリオルガノシロキサン (S) と、(メタ)アクリル酸エステル系単量体単位と架橋剤および / またはグラフト交叉剤とを含有するポリ(メタ)アクリル酸エステル (M) とからなり、質量平均粒子径が 0.05 ~ 0.6 μ mである複合ゴム状重合体 (R) に、ビニル系重合体がグラフトした第一のグラフト共重合体 (A) 1 ~ 99.9 質量部、

質量平均粒子径が 0.6 μ m 超 30 μ m 以下であるゴム状重合体 (G) に、ビニル系重合体がグラフトした第二のグラフト共重合体 (B) 99 ~ 0.1 質量部、および

その他の熱可塑性樹脂 (C) 0 ~ 80 質量部

からなることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物である。

本発明の第 2 の態様は、第 1 の態様の熱可塑性樹脂組成物からなる成型品である。

本発明の第 3 の態様は、第 1 の態様の熱可塑性樹脂組成物をシート成形してなる成型品である。

本発明の第 4 の態様は、第 1 の態様の熱可塑性樹脂組成物を異形押出成形してなる成型品である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

架橋剤および / またはグラフト交叉剤の合計量の下限は、熱可塑性樹脂組成物の顔料着色性がより優れることから、(メタ)アクリル酸エステル系単量体単位の 0.1 質量%、好ましくは 0.2 質量%、さらに好ましくは 0.5 質量% である。また、上限は、複合ゴム状重合体 (R) および第二のグラフト共重合体 (B) 製造時の凝塊物 (コアギュラム) 量が少なくなることから、(メタ)アクリル酸エステル系単量体単位の 5 質量%、好ましくは 3 質量%、さらに好ましくは 2 質量% である。